夕刊
磐城新聞
七月二十七日發行
定價 一ヶ月 金六拾五錢（郵稅 拾五錢）
廣告料金 普通欄 金六拾錢 特別欄 金九拾錢（五號十二字詰一行）（場所指定一行一回增）
編輯印刷兼發行人 柏木 福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所 磐城新聞合資會社
電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

詩南車今輯の歌壇を評す（上）

白木英尾

詩南車二十七輯の歌壇を一巡する。勿論現在詩南車の歌相は須佐之男尊以來馴致されて來た近七三十一音律の形式を無意識的に用ひてゐる歌が大部分であるから、之に對して私が批評の筆をとることは第三者には寛に失當と思はれるし、私自身には味もそつけもないものだし、夫々の詠者には『誰ぞ樂園を荒すは』などとお叱りを受ける覺悟でかゝらねばならぬので、實に損な役廻りであると泌々考へてゐる。然し之がせめて詩南車歌壇の向上に聊かなりとも稗益するところがあれば或は以て足れりと諦める文中の粗言暴言は讀者之を諒焉

○石川梅子

夕暮れて川面にのこる水明りこの道吾はひとりなりけり

この一首、おそらくは今輯中の壓卷であらう。短歌は小說などと違つて作品によつて讀者の心に訴へるものでなく、反對に讀者の心を作品の上に引きよせるものである。夕暮れの川岸に殘る動と靜、明と暗、自然と人とが目の前に讀者の心を引きよせる。而も『この道』の一句、實によく利いてゐる。作者は可なりの年輩の人だらう。この人、この一首で充分である

○大平松夫

君の作を見ないうちは實は君を期待されていゝ新人だと思つてゐた。然し今輯『春の旅』一連は私を落膽せしめた。或はこれは旅といふ落ちつきない歌材が君の實力を歪めたのかも知れない。至極あり勝ちなことである。この點から私は殊更評を差控へよう、この次の作品を期待する。

○泉田友成

『妻』一連八首。新妻との日常を甘い感傷で歌ひ上げたものだが、どの歌にも深みがない。先輯宮田青波君の『その日その日なりはひ立つる家ながら妻と我れあり貧しと言はず』程の力强さがない。只、表現手法が比較的こなれてゐる點を取る

ほゝ笑みて我れを迎へろ妻の頰に疲れの色のしるきこの夕

『ほゝ笑みて』から下句を持つてきては折角の甘さが欠ける。これは寧ろ上下逆にすべきだらうが、この程度の安易に馴れては困る。然し期待される新人、自重して欲しい。

○秋野卒一

風邪病みて夜具引きかづぎうつうつと夏の一日を蒸されてをりぬ

これも深みのない歌の一つだ、相手を作品の上に引きつけるのには、矢張り事象の深味に徹しなければならない。單にそれなりけりの歌では與も何もあつたものでない。私がこゝ欄から拔きたいのは、澤美枝、窪田志朗がある。殊に澤君など可なりいい天分があるらしい。私がずつと前から手がけてゐるせいか、この二人及び野村幸子の作品は常に注意してゐるが段々といゝものを見せてくるので嬉しく思つてゐる

○澤　美枝

この朝や卓上の薔薇の大き搖れ匂ひやゝ强く部屋にこもれる

一寸見るとたどたどしい樣ではあるが、可なり深い感動がこめられた作だ、薔薇の『花』と言はず『大き搖れ』と現した巧さが光つてゐる この一首、或は前出石川梅子に次ぐかも知れない。初句と結句において作者の位置もよく示してゐる。次の

呆心した私を嘲けるやうなへうへうと吹く風を感じる。

も自由律を把握していゝ天分を見せてゐるものだ

○窪田志朗

この朝け山下りくれば馬鈴薯の花咲く畠ひらけ明るし

結句でごた〳〵したのは惜しいがこの一連には一つの氣分が流れてゐる。只『山下りくれば』と改まらなくしも何とか言へたらう。寧ろ添削者に責あり乎・一體に歌境にいゝのを把んでゐるから伸びる素質がある。二首目の『花の香りの胸にしみ入る』といふ表現はいけない。これは一般に初心者の心すべき點だが頭の中で無理に作つた言葉は使はないことだ。

○三村哲朗

『うつろ心』三首。作者が舊來の歌を棄てゝ口語を用ひてゐるのが目につく。然し口語を用ひた歌がこれに止まつてはいけない。この三首から讀者が受けるのは用語に對する好奇心からのみである。而もどれも抽象的な言葉であるのは一層いけない。

○大竹秋平

吹きよする青田の風にまむかひて夕餉食すなり獨り居われは

少し大げさで格調も好過ぎて作者は言葉や調子に引きづられてゐないか。がつしりしてゐる點は宜しい。

大空の雲の往き來を氣遣ひつつ休みの朝を濯ぎ物干すにしても『大空の』は頭デツカチに終つてゐる。用語に留意されたい。

潮聲俳句　第四十六回句筵（於木兎莊）

其二

若竹の空もつんぬく勢かな　素秋
若竹の雨にぬれ〳〵ひかるなり　晩霞
庭の樹々すつくとぬけて今年竹　長貴
若竹や神離近うそよき振り　蘭外
若竹のさやかにひかる日照雨かな　松堂
天邊の皮脫ききらず今年竹　武門
若竹の明るき道をたどりけり　眞砂常
若竹の伸びゆく節の力かな　文狂
若竹の餘勢なほある育ち振り　芳月
若竹のぐん〳〵伸びて天を衝く　鶴歩
若竹の影疎なる月の窓　香雨
若竹や風に葉ずれの音もなく　竹羊
若竹や借間住ひの窓近く　狐舟
若竹の三日見ぬまの長さかな　十里

時代發語

○衆を容るる者は人君の德なり……（東湖）

人は十人色である、一々好き嫌ひすれば終に使ふ人無く、事を共にする人も無いものである、玆に於て衆を容るるの雅量を有たねばならない…………

拈華微笑

◇運賃が下らぬ爲反對に炭鑛經營者干上る

◇口中から金歯を賣る騷ぎ、文字通り食はれぬ世の中になつた

◇ウの字の附くものに事を欠いて悉皆ウだつちやつた今日の暑さ

◇水銀は百度近く昇つたが甕中依然冷凉秋の如し

◇一と雨欲しくなつた、勝手なもの。人間

○……○

夏の旅から

島田忠夫

（一）

信州、野尻湖畔の夏季講座に、童話と和歌の講師として出かけます。いま、小諸あたりを汽車の煤にまみれて、野尻の方へ向つてゐます。

信州の夏は深い綠です。驛每に、夏鶯の聲をききます。ねむの花が、どこにも見かけます。ちよつと哀れな氣がします。

（七月二十二日）

（二）

野尻湖の深い水色に心を打たれました。信州にはアララギの關係で、いろ〳〵友だちも多く、長野驛でも澤山出迎へて呉れました。小縣郡縣村夏目田といふ山の中から、態々來て呉れた友もあります。

信州は山國でも、敎育文化の盛んな處です。歌人にも立派な人々が多く、アララギの勢力が盛んであります。今夜は野尻湖へ泊ります。

（七月二十三日）

（三）

俳人一茶の生地、柏原に遊んで、これから長野市へ赴き『信濃每日新聞社』へ寄ります。この『信每』を通して、私の作品を知つて呉れる人極めて多く、今回の信濃の旅も極めて便宜を得ました。

二十六日は故島木赤彥先生の墓參に下諏訪へ赴きます。

今回の旅の歌は、いづれ『磐城歌壇』に發表致します

（七月二十五日）

社會の今日

7月28日

△ビスマース薨す（一、八九八）△墺國セルビヤに宣戰す（大正三）△聖上朝鮮水害地へ三萬圓下賜（昭和五）△行財政審議會開かる△石友三軍保定に迫り奉天軍と大衝突△揚子江氾濫して漢口大洪水溺死者數萬を數ふ△英國エミジヨンスン孃訪日飛行出發△世界早廻り二番機バングボーン、ハーンドン兩氏ニューヨーク出發モスクワへ（同六）

○

蟬しぐれ松の木立をぬけて行く朝の小路の石切りの音　仲野　四平

海戀し潮の遠鳴りがぞへつつ少女となりしちち母の家　與謝野晶子

講談　お蘭陀お蝶（92）

渡邊默禪作　布施長春畫

何處に寢る?これが二人の問題であつた、お柳は成るだけ近い所へ寢たかつた、寢かして下さることを內々望んでゐると格之助は如何考へてか、遠い距離を置いて次の六疊の間へ床を展べさせ、爾もその最中にはさして必要もない屛風をぴたりと据えた、此處難攻不落の城塞無念や糧道さへも絕たれた譯である、其の仕打ちがいかにも邪けんらしく又意地惡い樣にもお柳に思ひとられた、

格之助を床に着かせてから自分も冷えた蒲團に潛り込んだが春と云ふのは名ばかりの寒夜、戶外は月が落ちてから風になつたらしく庭の叢竹がばさ〳〵と陰氣に身顫ひの音をさせると闇を忍んで流れ込む黑い空氣がひやりと枕を嘗める體をこゞめて吐く息に顏を温めようとする下からいろ〳〵な瞑想が引切もなく、胸に泛んで疲れた心を嬲りものにするのであつた。

火藥の事や、燒打のこと恐ろしい未來を辿つてそれから大鹽家の內情おゆうや弓太郎の憐れな身上など自分の運命に引きあてゝ考へて見……いや人事ではない。我の前途は如何なるであらう?死ぬことは更々厭ひはせぬが、それも此の戀が叶つた上でありたい、假令短かい契りであらうとも、君の涙を手に受けて愛しい妻と呼ばれたならいかで此の世を惜しもうぞ、それにしても聞きたいのは若さまの胸開いて確な決心もしたい聞くべき折は今宵を外にしては——など思ひ惑つてゐる中に亢ぶる動悸の故か俄かに呼吸苦しく塞まりかねてふら〳〵と寢床を脫け出した。

夢心地に格之助の寢てゐる座敷へ這つた、そうして行燈の下にぺたりと坐つて鐵瓶のぬるま湯を湯吞みへついてごつくりと一息に飮みながら偸む樣に男の寢姿を覗いて見た。さも何事かを怖るるかの如く。

まだ眼を覺ましてゐるのか、格之助は寢返りを打つて咳をした。

『モシ若さま!若さま!』

思ひ切つて呼んだ、肩を萎めて雙の手を組合せて我が胸先を犇と押じて——何故か聲が悸く。

『何事ぢや』

格之助は向直つて嚴しい眼で睨みつけた。

『まだ起きてゐるのか、もう寢い、何をいたして居るのぢや』

折柄九つの鐘が鳴つた家の棟をごうと吹き過ぐる夜風

『いえ、あの少し』

と、お柳は妙にどもつて

『何ですか、寢苦しくつて……どうしたといふんでございませうね、胸騷ぎがして訝しな心地に……場所が異つた故でせうか』

とわざとらしい太息

『何寢つかれんとか、たはいもない、それしきの事に何ぢや、人を呼起して……睡うてならんわ』

格之助はものぐさい欠伸をする

『お邪魔をいたして誠に濟みません、今直ぐと立ちますからもう少しの間、お置きなすつて下さいまし』

怨めしそうに男を視た

『ハヽ直ぐと行くから、もつと置いて呉れといふやつもないものだ、男女七歲にして席を同じうせず、殊に夜更のこと些と嗜んで呉れんでは困る、お前に爾うして居られると、身們の方が寢つかれぬわ』

何處までも膠がない。

『はい唯今』

お柳は寢衣の襟を搔き合せて見たり髮のほつれを咬んで見たり、少頃もぢ〳〵してゐたが軈て俯いたなりにつこり笑んで。

ラヂオ

仙臺 JOHK

……二十八日（木曜）……

△前六、〇〇A ラヂオ體操
△九、〇〇A 氣象
△九、一〇 料理獻立（ポークカツレツ）中村光三 日用品値段
△一〇、〇〇A 家庭講座（兒童舞踊）花柳珠賓…伴奏北村喜美子
△正午A 時報
△後〇、〇五A 講談（孝女おりやの仇討）太田貞水
△〇、四〇A ニュース 氣象
△一、一〇 運動競技（野球大會第二日目…此の時間中定時放送事項は中斷して放送す）
△三、〇〇A 家庭講座（長唄のお稽古）杵家彌七
△三、四〇A 氣象
△四、〇〇A ニュース
△六、〇〇A （子供の時間）放送子供芝居（水）佐々木靑作 HK子供會
△六、二〇A コドモの新聞 關屋五十二
△六、二五A カレント、トピックス ハロルド、バーマー
△六、三〇A 英語講座 堀英四郎 ジエー、マツキンレイ
△七、〇〇A ニュース 氣象
△七、三〇A 講演（オリンピックの展望 一、オリンピックと日本…澤田一郎 二、派遣選手の昨日今日…辰野保 三、陸上競技の豫想…野口源三郎 四、水上競技の豫想…小林榮三）
△八、三〇 箏曲
△九、〇〇A ヴアイオリンとピアノと唄（一、ソプラノ…瀨川佐喜 二、ピアノ…高桑美世子 三、ヴアイオリン…森乙）
△九、三〇A 滿洲より、外交部司長大橋忠一
時報 全國ニュース 氣象 生繭相場

暑中御伺
土用丑日には牛肉賣出致します
その肉はよく…その値は安く 此の上なしの…自信を以つて!
丑の日（七月廿七日）

並肉	百匁	二〇錢
中肉	同	三〇錢
上肉	同	四〇錢
ロース	同	五〇錢
ヒレ	同	六〇錢

田町大通り
三二三肉店
電話三二三番

暑中御伺ひ申上ます
長い間御不自由をかけました。ハシモトヤも皆樣の御同情と御後援によりまして新店舖で營業の運びになりました。品物も充分に揃ひました。相變らず御引立の程御願ひ申上ます。
平町田町銀座通り
ハシモトヤ糸店
電話十四番

吉田眼科病院
平町紺屋町

內臟外科 整形外科 泌尿器科 外科 産婦人科
醫學士 內木宗八
平町新川町十九番地
木村病院
電話一六四番

貯金は福島貯蓄へ
◇預金には税金がかゝりません
御子樣の爲めに貯金!
平町田町（新道通り淸水醫院跡）
福島貯蓄銀行 平支店
電話三〇八番
預金と拂出し御融通も懇切御便利を旨とし月掛貯金には集金人が伺ひます。

貸切ノ御用命ハ
イツデモ眞先（マツサキ）ニ（松崎（マツサキ）ニ）
三九二（ミクニ）タクシーへ
（デンワ、ミクニ）

石炭の大特賣
◎塊炭 正味十貫目 一俵 金貳拾錢也
▲『品ガ良ク』『値ガ安ク』『目方ハ正確』デス。
▲トニカク一度使ツテ見テ下サイ。
◉配達ハ一俵ヨリ致シマス。
御注文ハ 電話三七番
ツ 阿部石炭商店
平停車場前

更科生そば
一、もりかけ 金七錢
一、ざるそば 金拾五錢
一、冷むぎ 金貳拾錢
尚氷水も始めました。
一、アイスクリーム 金拾錢
一、あづきアイス 金五錢
一、ミルクセーキ 金拾五錢
…出前迅速…
平二丁目警察署通り
藤よし
電話一六六番

横濱植木株式會社特撰
草花、蔬菜類
優良種子
各種賣出し致しました。
農園藝やく品の御相談は
西村屋藥局
電三番

運賃値下の望み薄に　常磐小炭鑛經營者起つ
來臨時議會を期して上京　一大實現運動敢行の方針

炭況不振當面の打開策として鐵道運賃の重壓に喘ぐ大小炭鑛經營者を匡救すると同時に之が振不振と密邇の干係を有する地方一般の景氣恢復を圖る爲に鈴木代議士より過ぐる議會に右値下に關する建議案を提出したるをはじめ當業者亦關係當路に向つて熱心に陳情請願を續けつゝある旨屢報の如く而してその向背如何は直に地方一圓の景氣を支配する重大問題なる丈に多大の緊張を以て成り行きを刮目されてゐるが日本經濟聯盟理事長鄕誠之助男・內藤久寛氏は過般同聯盟內に設置された鐵道運賃制度改正委員會の決議に係る建議案を携へ二十五日午後二時半鐵相官邸に三土鐵相を訪問、これを手交懇談を遂げた結果、鐵相は財政の現狀より觀て運賃の値下げは到底實現を望まれぬ旨を言明したので過般來該問題に就て各方面に猛運動を續け來つた常磐の小炭鑛經營者から成る値下期成同盟會では一層之が目的貫徹の決心に拍車を加へられた形ちで磐城、入山、古河、窩島、大倉の五大炭鑛に向つて同一歩調の下に飽迄値下げ實現の運動を開始すべく賛意を求めて來たに對し五大炭鑛側では去就は一に本社の意嚮に俟たねばならぬので山元としては遽に行動を共にし難き事情を表明する處あり結局前記五大炭鑛を除く爾餘の各鑛では、來九月頃召集されるものと觀られてゐる臨時議會を機とし各山元より老幼婦女を加へたる多數從業員が上京し場合によつては官廳の軒下等へ野宿をもし兼ねまじき悲愴な決心の下に一大デモを敢行する事になつたと

濱三郡　小學校敎員庭球
愈々明廿八日正午から　炎天の磐中コートで開催

濱三郡小學校敎員庭球大會は明二十八日磐中コートに於て開催するが出場チームは次の如し

泉（鈴木・佐藤）磐女（大內・鈴木）小川（黑木・松本）
神谷（高久・平嵐）（佐藤・鎌田）赤井第二（井目・金子）
（松本・加藤）（日坂・松本）湯本（小林・正木）
（横田・岡部）（小野・横山）（秋山・木村）
平第一（藤田・小林）（上川・松本正）（横田・松本）
（水竹・根本）（井上・中村）平第二（野原・米本）
（松本・渡邊）（熊谷・玉木）好間（鈴木・中山）
（佐川・增井）（松本・伊藤）（佐藤・新田）
（大河原・加藤）（鈴木・仙木）

平青訓　耐熱演習

平青訓生約三十名は既報の如く今二十七日早朝來平四倉間で耐熱演習を行ひ折柄丑の日で交通頻繁の國道に添ふて前進大に實戰氣分を横溢させ終つて海水浴をなしたと

磐中野球部終に　東北豫選出場權獲得
期待さるる來月一日の活躍

磐中野球部は愈々多年宿望の東北豫選出場權を獲得したのに力を得昨二十六日から全部合宿猛練習を繼續する事となつたが來月一日の大會當日は磐陽野球協會を初め一般ファンは態々出張り應援する等頗るその活躍を期待されてゐる

實業公民校
九月五日より始業

平實業公民學校は愈々九月五日より始業する事となり目下入學生募集中であるが右は商業に從事し或は從事せんとする者にて實務修學の餘暇なき者の爲に商業に關する智識技能を授くるのが主要なる目的で期間は九月より三月迄で十月より二月迄五十錢の月謝を徴收するが從來の夜間學校課目より地、歷、體操、敎練が加はると

○○○第三校唱歌會　今二十七日午前八時から母の會と併せ開催した

貧困者救濟に　拂下米千五百俵
郡產業組合で購入

郡產業組合では貧困者救濟の意味で一俵に付き二圓四十錢低廉な政府米を購入し此程昨報の勿來三車をはじめ小名濱內、各二車、平窪大浦各一車合計九車千四百四十俵を各町村組合員に配布したが農家が既に持米を手放し高い米を日買ひしてゐる折柄とて各方面から非常に喜ばれてゐるので近く再た第二回の購入配給をなす事となり目下諸般の準備を進めて居る

藤井元入山坑務所長　同社機械係顧問に就任
けふ役員一同に披露挨拶

元入山坑務所長工學士藤井正芳氏は先年同社を退いて以來平町舊城址に居を營み靜かに讀書生活を送つてゐたが今回吉田所長の懇請により同社の機械係顧問たる事を快諾し今二十七日午後三時から同坑務所に於て役員一同に披露の挨拶をなした、因に氏は機械學に極めて造詣深き當代の權威であると

多年の懸案たる　九面隧道掘割り着工
隣縣茨城と折衝成立

勿來町九面地內國道の隧道は地層が脆弱なる軟土岩の爲め風雨の度に崩壞し交通上極めて危險なので地元民から再三當局に對し改修方の陳情を重ねて來たが茨城との縣境に在る爲め工費發算其の他の關係上兩縣の意見一致を見ず遷延今日に至つた處愈々此の程兩縣の折衝が成立し本年度豫算工費三萬餘圓本縣は擔一萬七千圓を以て今秋より該隧道の掘割りに着手する事となつた

滿洲行　藤田中尉　（第卅五信）

○○○兵工廠を見る（續）

北平に再擧を計ると虚勢を張つて居る學良も、この工廠を失つた事丈に想到してもどんなにか氣を腐らして居るだらう等と考へても見た、目下鶴城の勇士がこれが警備の任に當つて居るのだが支那一流の盜人襲來每夜の如く、銃聲を聞くと云ふ命掛けの兵器窃盜、やはり支那人は命よりも物を愛する國民だと思つた。兵工廠に近く航空廠がある、その飛行場も宏大なものだ、だが我軍の疾風的攻略に遭つては飛べる飛行機も逆風を喰つて何の用をなさなかつた、況して飛べない飛行機も多數あつたと云ふ事に於てをやその日上空には爆音勇ましく盛んに高等飛行をやつて居つた─恰も元の航空廠を嘲笑けるやうに──いい氣分になつて吾等一行は夕刻歸奉した（六月六日奉天にて）

○○○愈々北滿の途に就く

其夜奉天驛には平田聯隊長を始め藤井大隊長其他多數官民のお歷々が見えた一行の北途を見送らんがためである、十時愈々北滿への列車に乘込んだ、夜行の事とて元より展望はきかず無味乾燥しい中にも遼河のほとり、鐵嶺を通り大豆の都開原を過ぎれば日露の役に我が滿洲軍最終の陣地昌圖に着く正に夜半、四邊は物皆滅入りそうな物淋しさかてて加へて汽車は漸く徐行はは愈々危險區域警戒地帶に入つたな、と獨り合點して居ると車中次の要旨の命令が傳へられた。

○○○警備事項。

一、警備上に關しては高田中將の指揮を受くべし

二、各車每に本科將校一名を指揮官として副官一名を定む

三、各車每に武器を有するもの四名を勤務員として警備に任せしむ

四、消燈ありたるときは直に武裝し副官は本部と連絡すべし

五、列車進行中異樣の音響を聞き又は射擊を受けたるとき若しくは急停車をなしたる時は警急集合すべし

六、射擊を受けたるときは車內に於てなるべく低き姿勢をとり輕擧妄動すべからず

七、各列車指揮官は必要に應じ隣接各車指揮官と連絡すべし

八、各列車はスヰイチの位置を判明し置くべし

九、各荷物は一纏にしていつにても取出さるべき樣準備しおくべし

十、夜點燈後の列車進行中は窓硝子並にカーテンを下ろし燈火の車外漏洩を防ぐべし

右事項は公主嶺以北に於て實施すべし

午前三時半四平街に着いた四平街は東部內蒙古への入口であつて四洮鐵道はここから西方內蒙古に向つて繼くのである、一見して秩序正しい街衢を成して居る所歐風の文化村である。

渡警察部長初巡視
來月四日來平豫定

渡警察部長は相双兩郡を經て來月三日午後四時四倉町に一泊四日午前九時同町を出發伊藤平、根本四倉兩署長の案內で植田署に向ひ午後一時同署を發し小名濱、江名、豊間を巡つて午後四時來平住吉屋本店に一泊、五日午前九時平署を視察して小野新町に向ふ豫定

今日の臨時列車　濱行き千四百名
朝來芋の子を洗ふ混雜

今二十七日の丑の日は快晴に惠まれ各濱行の人達で自動車、汽車共非常な混雜を呈し平驛發の臨時列車は午前八時二分發六百三十四名、同八時二十分が四百九十二名、同十時二百五十名合計千三百八十一名に上り今夏最初の而して最終の人出と觀られてゐるが行先きは四倉が主であつたと

屠殺十六頭
今丑の日の消費量

今二十七日の第一丑の日で平屠殺場の屠殺頭數は牛五馬四、豚七で昨年と比較すれば牛二、馬一の減、豚二の增である

三百貫のまんぼう

四倉町の某漁船は今廿七日朝附近沖合に出漁中大まんばうを發見したので銛を擊ち込んで難なく捕獲し六隻の傳馬船で陸へ引き揚げたが重量實に三百貫丑の日の人出で見物の人山を築いた

○○○納涼演奏會　四倉尋常高等小學校では明後廿九日午前九時より同校講堂に於て兒童納涼演奏會を開催の筈

金齒は賣らぬか　價格の奔騰で
平町にも珍商賣出現

金の奔騰時代。一匁五圓の概念を一ト八圓近に修正した人々の金に對する關心は遂に質草を替へて受け出すやら、利子を入れて延命の手配をするやら歷然と一六銀行の帳面に反映しつゝあるは云ふも更なり、昨今では利に敏いあたまの良いのが各戶を訪問して、毀れた萬年筆のペン先や果ては現在用いてゐる金齒迄賣りませんかの相談を持ち廻ると云ふ有樣、この超尖端的新商賣は昨今既に平町に行はれつゝあるが旋てのどから手の出る程現金に飢えてゐる附近農漁村に及ぶ事であらう

老の奉仕
奇特な敬次郎翁

平町大町平團体事務所小使敬三郎(五七)さんの實父佐藤敬次郎(八八)さんは昨今の暑熱に壯者も凌ぐ元氣で平署及官舍、土木督監所、穀物檢査所、縣稅務出張所、團体事務所等の附近を綺麗に掃除しつゝあるが同人は平町役場に十七年勤續退職以來舊郡役所に敬三郎さんが奉職してから十數年間十年一日の如く老の身を此の仕事に捧げて來たもので此の奇特な行爲に對し伊藤署長始め近く何等かの方法で酬い度いと寄々協議中である

第二小學の　鄕土室充實
今夏中資料蒐集

平第二小學校では過般來鄕土室を設け資料の蒐集中で既に平城舊繪圖、御倉番使用の時計等珍奇なものが少くないが今夏休中は鑛、動植物の標本を蒐集し一層充實を期する事となつた

空巢覘ひの專門賊　舞ひ戾つて捕はる
赤井居住の佐藤正記

赤井村大字赤井居住相馬郡新館村大字伊田川生れ佐藤正記(三四)は去月中同村鈴木幸內の留守宅から衣類十數點價格十餘圓を竊取したのを手始めに外七件の空巢覘ひを働き贓品を入質して東京方面に逃走し昨二十六日自宅へ舞戾つたのを張込中の平署員に逮捕された

別れ話に赫となつた　四倉の殺人未遂
豫審終結決定す

大野村大字戶田字蛭田大工職吉田貞男(三七)が五月二十日午後二時三十分頃同人の懶惰さに愛想をつかして家出し四倉町仲田の實母あき方に歸つた內緣の妻沼田きみ(三五)に復緣を迫つた處滿洲へ出稼ぎに行く事を承諾して置き乍ら別れ話を持ち出したのでその變心を憤り所持の鐵板片で兩人の頭部を毆打し各四週間の裂傷を與へた殺人未遂事件は平支部藤原豫審判事の手により審理中であつたが此程豫審終結決定公判に附された

水泳中に　癲癇を起す
十四の少年溺死

夏井村大字荒田目農業二男新妻芳夫(一四)は昨二十六日午後二時半頃同字六十枚橋下夏井川で水泳中癲癇を起し溺死したのを在鄕軍人の矢吹清君外一名が發見約四十分間に亘つて人工呼吸を施したが蘇生するに至らず其筋から係官出張檢視した

菊田の涼風
◇岩間海岸便り

植田町岩間海水浴場は地元青年分團の斡旋に依て浴場の整備に全力を注ぎ迎客上諸般の計劃を進めてゐるが同所は波極めて穩やかな遠淺で全く理想的の浴場なるに加へ清潔な砂濱を隔てて鮫川支流があり婦女子に至る迄名物の蜆を家苞に歸れると云ふ淸興もあるので奉仕的安値を以て運轉して居る自動車を利用し昨今頓に人出を陂つてゐる

平松武氏長逝

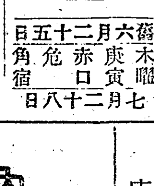
平町五丁目平松武氏は過般來病氣療養中であつたが藥石効無く終に昨廿六日永眠した享年五十九。葬儀は明後廿九日九品寺で執行すると

四倉小唄と　音頭の披露
來月三日海盛座で

四倉藝妓屋組合では來月三日午後六時より海盛座に於て藝妓總出演で四倉小唄、音頭の披露會を開催すると

○○○甘い泥棒目星つく　平町一丁目河內屋商店軒下から二十四日午後九時頃砂糖水飴價格三十圓をリヤカーごと竊取した犯人は平署で嚴探中當時住所不定無職宮城縣生れ前科二犯金成貫七(五七)を被疑者と睨み既に住所も判明し本日中檢擧される見込である

○○○不實記載に罰金　雙葉郡富岡町齊田壽時(四〇)廣野村猪狩金三郎(四八)の兩名は公正證書原本不實記載並行使の廉で今二十七日平區で罰金廿圓の略式命令を受けた



舊六月二十五日　木曜　七月二十八日　庚寅　赤口　危　角宿

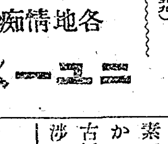
鑑判定應需　東京市本鄉區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠館

▲一白の人　他よりの拘束を受け活動思ふ儘にならぬ日▲二黑の人　物事に延滯はあれど心を引立て氣をくじくな▲三碧の人　堅實なる精神は成功の城に入る門と知れ▲四綠の人　事業の轉換或は心の移動を深く戒むべき日▲五黃の人　牛の歩みは遲くともたゆまざれば遂きに達す▲六白の人　善き話しの種を持込まるる日應分の助力吉▲七赤の人　能く泳ぐ者は溺るオ力以上に及ばぬが吉し▲八白の人　輕忽に進む可らず意外の變事に遭ふ事あり▲九紫の人　不馴れの事に手を出すな失敗は忽ち廻來る

平町慶弔錄

△出生　田町四五東京府豊多摩郡野方町上沼袋五五九小川勇夫二女みさ子

▲死亡　五丁目二平松武(五九)



各地情痴ニユース

△キッスの泥棒　京都の某百貨店に通勤してゐる大津市松本藤原みよ子(一九)さんが縣廳横を歩いてゐると風の如くに飛び出して來た二十八九の洋服男にアレッと云ふ間もなくキッスを盜まれました！とりあへず大津署に屆け出ましたが、犯人は煙の如く姿をかくす戀態魔と見られます

△粋な檢事さん『浴衣一反たつた四十錢です買つて下さいネ』と云つたのは岐阜市本鄉町綱島鐵三(三六)の內緣の妻朝倉とみ子(三七)─『馬鹿！不景氣なのに買はれるか』と一蹴したのは鐵三、でドッ喧嘩になつて双物沙汰になつたが元々好きつ好かれつの仲だつたので係の檢事さんも一切を水に流しての粋な裁きでチヨン

△妾さんを殺す『君の妾松岡ツルヨは近所の小林繁太郎と怪しいぞ』と友人から聞かされた福山市神島町上市四五〇岩橋一夫は『コハ容易ならぬ』と出刄庖丁片手にしてツルヨに『小林を殺してやる』と脅かしたらツルヨは愛する繁太郎の爲、これを阻止したのでテツキリと思つた一夫は背後からブスリ

△刄傷の母と娘　大阪生れの鈴木一次(三五)は自分の素行の惡いのを棚にあげてかつて靜岡縣濱名郡伊佐義古橋ちゆ(三〇)方へ復緣の交涉に乘り込んだが、にべもなくはねつけられたのでカッとなりちゆの頭を棍棒で一擊、ちゆの母いよ(五九)に亂打を喰はし其儘逃走したが、着物に付いた血で足がつき濱松署へ

△戀の駈落按摩　色白で丸顏で瘦形で洋裝美人で兩手の爪が九本迄脫落したり綱ね上つたりしてゐる珍しい女、兵庫縣武庫郡瓦木村死林加島よしの(三〇)は畑本留吉といふ內緣の夫との中に子供あるに拘らず、金井菊松(三四)といふ按摩さんといゝ仲になり、手に手を取つて西ノ宮方面へ戀の道行

平南町　上田醫院　院長　上田耕作　電話　一二九番

漆器は㊋が專門
品質の正確さ！
値段の破格さ！
在庫品の豊富さ！
懸命の奉仕は！
弊店のモットー!!!
各國產漆器、專門卸小賣
記念表彰品。恩賜賞與品。進物贈答品。賞品景品類。御注文應調製
丸共共榮漆器店　平町三丁目北裏（元郵便局裏通り）
店員募集（十三才ヨリ二十二三才マデ）

內科　一般　難波醫院　醫學博士　難波睦
平町大町新川端（電話五〇二番）